

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム岐阜羽島
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市足近6-66
記入者名 (管理者)	佐藤 ちひろ
記入日	平成 20年 11月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	ホーム独自の理念を掲げ、皆さまに満足していただけるサービスを提供できるように努めている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	会社の運営理念に基づき、その実践へ向け取り組む努力はしている。また、会議の時など三唱するようにしてる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	様々な機会(行事等)を通じ、地域や家族への理解に向け取り組んでいる。行事に参加する際は、家族の意向も聞きながら、できる限り参加していただけるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	行事等への呼びかけ、日常の散歩時等、交流を図る努力をしている。また、利用者様と散歩へ出かけたときなど挨拶を心がけ声を掛けさせていただいている。近隣に喫茶店があるため、そこから徐々に広げていけるよう今後も努めていきたい。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の創掃除や行事に積極的に参加し交流を図っている。利用者様が参加しやすい環境を整えながら、今後も積極的に参加していきたい。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員同士では、支援の中で何か出来ないか話は出ているが、実践までに至っていないのが現状。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの評価に目を通し、改善に取り組めるようスタッフにも伝えて取り組んでいる。常に職員が、専門職であるという意識を保てる様、また、現状に浸らないためにも、評価を再確認できる機会を設けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見等、全てをフロアー会議にて職員へ報告し改善・向上へ向け話し合っている運営推進会議で取り上げてもらいたい議題を職員の中からも出せるように努めていきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で市町村担当者と行き来する機会が少ないので、今後改善していきたい。	○	今後は、地域資源を活用するという面においても、運営推進会議以外で交流が図れるように相談および報告等を活発に行っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ほとんどの職員が制度について関心が無く、勉強会も設けていない	○	制度や行政についての知識を全職員が身につけられる様勉強会を設けたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が虐待を受けることで、どんな思いになるか、全職員が意識しているため、自然と虐待防止につながっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に徹底したアセスメントを取らせて頂き、理解・納得の上での契約を結んでいる。ご利用者様の要望、ご家族様の要望を聞き、全ての要望にこたえることはできない場合があるが、できる限り取り入れるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全ての苦情・不満を請負、都度職員間で話し合い改善に努めているその都度家族にも報告し、協力してもらえよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全職員が毎月、日々の様子、身体の様子、行事についてなど、項目に合わせ、具体的に報告できている。	○ 職員から家族という一方的な流れになってしまっている為、家族へ直接連絡を入れ、家族の意見も反映できるよう努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など、ご利用者様の居室や相談室を活用し、話しやすい環境を整えお話を伺っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員の意見に耳を傾け反映できる為の努力をしている。利用者との関わり方は、職員一人ひとり違うため、職員間で学ぶことも多いので、今後も意見を十分聞き、反映させていきたい。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様一人ひとりの希望に応えられるよう、職員の確保や車の手配などを行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の状況に応じ、無理のない職員配置を心掛けている。代わった事に対して気にしている利用者に対しては、事情を説明する場合もあり、ダメージを最小限にしようとしている。	○ 利用者の中には、代わった職員の良かった点を話す事があるので、残っている職員ができる限りそのケアに近づき、利用者のダメージを軽減することも取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	社内研修の徹底はなされているが、外部の研修参加までは進めていない	○	外部の研修等がある場合、その都度職員に話をもちかけ参加していけるよう努めていきたい。職員の中から、学びたい内容を持ちかけられた場合は、できる限り探し、参加してもらいたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同じ系列のホームがいくつかある為、他ホームへの研修を取り入れている。そこでの意見交換や、他ホームで学んだ事、感じた事を会議の際に発表してもらい、今後のケアに繋げている。	○	協議会会員である事をもっと活用し外部での講演参加等に職員が参加できる機会を設け参加できるよう努めていきたい。現状に浸ってしまわない為にも、新しい情報を職員が得られるよう設定していきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の話に耳を傾け、働きやすい環境作りに心掛けている。また、いつでも相談ができるよう、相談窓口を設立し、電話、メールでの相談を行っている。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員のモチベーションが上がる様な個々への対応を心掛けている。職員個人の得意な分野を生かし、ケアに取り組んでもらっている。不得意分野は職員同士で助け合いながら行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	何度か見学に来ていただいたり、ホームでの生活についてのお話を時間を掛け行っている。ホームの雰囲気を知っていただく事で、少しでも不安な事が取り除けたらよいと思っている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ご家族様だけとお話する時間を設け、苦勞された事や困った事を話していただけるような時間を設けている。グループホームがどのようなところなのか、解りやすく説明させて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前アセスメントの際に、きちんと話し合い見極めていくように努めている。またその時々に応じてお話を伺うようにしているが、一部の職員しか対応できていないのが現状である	○	職員全員が対応できるよう、カンファレンスを通じて相談を受けたときの対応を学んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理なく安心してホームでの生活や、他者との関係に馴染んで頂く様に時間をかけて、サービスを開拓している。ご家族様から、家庭での食事や入浴や排泄の仕方について伺い、ホームでの生活と照らし合わせながら、そ人にあった環境設定を行っている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向を重視し、本人の気持ちに寄り添えるよう努めている。ご利用者様が何を求めているのか職員全員で考え情報を共有していく必要がある。	○	一部、職員の発言により、感情を抑えてしまっている部分があるため、じっくりと時間をかけ、本人の要求に耳を傾け納得し気持ちを抑えてもらうよう、全職員が心掛けるよう努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりを十分保てるように訪問時や電話連絡等を活用して情報提供を行い、家族と一緒に利用者様を支えられる環境を整手居る。気軽にホームへ来ていただいたり、電話での相談に応じられるよう環境を整える必要がある。	○	気軽にホームへ来ていただいたり、電話での相談に応じられるよう環境を整えられるよう、さらに努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様、ご家族様のお話を聞き、その状況に合った支援を行っている。離れて生活していても良い関係が築けるよう支援させていただきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活習慣を無くさず、継続出来る様家族の協力のもと努力をしている。職員は、本人と話をし、馴染みの場所へは一緒に行く計画を立て、積極的に外出をし、ホームでは見られない気づきを増やしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係の把握はできている。利用者同士で関係がうまくいかない場合は、職員ができる限り寄り添うよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も足を運んで下さる家族の方もみえ、良い関係を築いている。相談等の連絡が入ったときでも、十分対応できる体制を確保している為、今後も長い目で関係を保っていききたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位な生活が十分送れるよう、希望等、把握するよう努めている。その方に合ったケアを職員で話し合い、要望にこたえられるよう努めている。	○	一部思いを溜め込み、限界状態になってから、職員に話す利用者もいる為、常に日常生活での希望を聞き、対応するよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、ご利用者様の生活歴や趣味などの把握に取り組んでいる。グループホームご利用までの経緯を知る事でなじみの暮らしが少しでも送れる事ができるよう努めている。	○	センター方式の理解が、全職員ができていないため、勉強会などを開催し、理解をしてもらえよう努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りを通し、職員間で情報共有で様子を把握するよう十分努めている。また、日課表を作成し一日の過ごし方の把握をし、趣味に打ち込める時間や、外出の機会を組み入れ、充実した一日を過ごしていただけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、全職員が利用者様一人ひとりに対し、ケアの内容について考える事ができている。また、家族に現状報告、今後の改善点を伝え、内容の濃い介護計画の作成ができている。常に利用者様に目を向け、前向きに利用者様、ご家族様、職員が取り組める介護計画の作成に努めている。できる事を伸ばしていけるよう、職員がアイデアをだしあっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	都度変化に応じカンファレンスを実施し、現状に即した計画を作成している。期間に囚われず、日々起こる出来事に対し、その都度話し合いの場を設定しているため、今後も続けていきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践・結果は記録に十分記入されている。当事者がどうだったかという点に、焦点を当てケアを行うよう職員が努力し、些細なことでも、記録に記入するよう意識づけしていきたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	都度、状況に応じて支援できている。福祉用具を扱っているため、その方のADLに応じたベットや杖を提供している。できる限り、要望に応えられるよう、利用者や家族に情報提供をし、その人にあった支援ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などを通じてボランティアなどと協力しあい支援している。また避難訓練には消防署の方にホームに来ていただき指導もして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	その方の趣味が活かし、作品を出品し多くの方に見ていただける機械を設けている。	○	地域包括支援センターの方にご利用者様が利用できるサービス情報を教えていただき活用できるよう体制を整えて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を活用し、相談や協力ができるようにしているが、権利擁護についての理解ができていない職員も多いため、適確な対応ができていない。	○	地域支援センターの方に権利擁護やケアマネジメントについての勉強会に協力していただき、知識を高め、今後につなげて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との連携をしっかりと、必要に応じて受診や電話相談を行い、ご家族様にも相談内容や、身体の状態を報告している。ご家族様が医師と直接、話ができるよう支援を行ったり、受診前には家族様に相談したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	専門医と連携を取り、専門的な視点から、ケアへ反映させていきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	情報交換や相談は、何か起きた時に行うことが多い為、定期的にとっけていき、連携をより強めていきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	対人援助技術を職員がもっと身につけ、利用者への対応の幅を広げられるよう努めていきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄誘導の時間帯をケアプランにて定めてはいるが、本人の意思に合わせて誘導している。尿意の訴えがある場合は、二人介助にてトイレにて排泄していただく場合もある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間帯を聞き、利用者の入りたい時間に入浴できるよう心掛けている。また、仲のいい利用者間では、入浴順番を決め職員に伝えることもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況にあわせ、疲れが蓄積しないためにも、その都度、居室にて休んで頂いている。一人になれる空間を作り、一人の時間を楽しんでいただける工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	室内だけで一日を過ごすのではなく、散歩や買い物に出かけ、気分転換を図っている。絵を描くことが好きなご利用者様と絵の具や色鉛筆を一緒に買いに行くことも行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてご本人に管理していただいている。その際は金額を把握しご家族様に報告をしている。また使われた金額を確認し記録として残すようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「外へ出たい」という意向をできる限り叶え、散歩へ行ったり、外のベンチに座って気分転換ができるよう努めている。	○	電子錠を開放している時間が少ないため、利用者の希望がない時も、開放している時間を作っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出方法を工夫し、職員全員が心掛けている。また、ご家族とも連絡を取り合い、ご家族と一緒に外出できる機会を作っている。「家族だけではトイレ等が心配」とご家族様よりお話がある時には、職員が付き添い外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が代筆をし手紙を出したり、希望される方には電話でお話をさせていただけるように支援させていただいている。	○	家族との関係が希薄にならない為にも、やりとりできる機会を設けるよう努めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に面会に家族に対しては達成出来ていると考えられるが、一部、家族との問題により来所されない所もあるのが現状。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分理解しており、拘束しないケアを常に確認し合い取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアでは入り口は電子ロック付きのドアのため常に施錠がされている状態だが、ご利用様が希望された場合などいつでも出入りが出来るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的に居室を訪問しお話をさせていただいている。常に目を配り立ち上がられた際の見守りや、歩行を妨げるような障害物の確認等を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の状況に応じ、管理、保管を行っている。ご本人の希望されるものに関してはご利用者様自身で管理をして頂いている。物品の把握を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	身体状況や食事摂取の状況把握をしっかり行い、事故防止に努めている。どのような点に気をつけなければならないのか、会議の時などを活用し知識を高めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒に関して居室内で起こるケースがある為、居室担当者が未然に防ぐことができるよう、整備するよう心掛けている。事故が起きた際の手順、応急処置のマニュアルをファイルにまとめ、フロアに常備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行い、夜間を想定した避難訓練も行っている。火災に関する新聞記事等を回覧し意識が持てるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や面会に来られた時などご本人の状況を説明しリスクに対するお話をさせていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りの際に、情報の共有に努めており、話し合いが必要な場合は、その機会を設けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の処方内容を貼り、その方の服用されている薬がわかるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩、フロア内を往復し歩行運動をしてもらうよう努めている。水分摂取にも心掛け、食事時のお茶をできる限り多く飲んでもらう等水分補給を心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア行っていただくよう声掛けを行っている。義歯の洗浄、消毒を夕食後に行い、夜間は外して休んで頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一覧表にし把握できている。食事時に十分とれなかった場合は、家族からの差し入れをその時に食べてもらうなど、その都度対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	散歩や外出から戻ったら、うがい、手洗いの徹底を心掛けている。ホームとしてマニュアルを作成しており、職員が観覧できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房職員の協力があり十分出来ている。調理器具、ふきん、ゴミ箱などは定期的に消毒を行い、清潔を保っている。床の掃除は毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物を置き、温かさを出している。ベンチを設置し一休みできるようにしている。ご利用者様にも活用して頂いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所や浴室がわかりやすいように、目線の高さに案内を掲示している。行事を行った時の写真を廊下に掲示したり、季節に合った飾り付けを行ったしている。	○	共有スペースの使い方を工夫し、家庭的な雰囲気(畳をひく、こたつを置くなど)を作り上げてくため、職員間で話し合っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、ゆったりと過ごしていただける環境を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのある家具や布団を居室に設置し、少しでも落ち着いて過ごしていただけるよう努めている。ご利用様が動きやすい家具の配置をご利用様、ご家族様と相談しながら行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン等は朝、夜間のみ心掛け、日中は換気し調節をはかっている。休まれた後、室温の確認を行い、外気との温度差がない様になっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し自己にて歩行ができるようになっていいる。廊下広く、段差もないため安心して活動できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	席に配置や交友関係に十分配慮し、どこにいても居心地のよい環境作りに努めている。一人になれる空間も作り、安らげる工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にはベンチ等を設置し、天気の良い時にはベンチで日光浴を行ったり、利用者様同志で会話を楽しんだしできるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出の機会を多く設け、天気の良い日には近隣の喫茶店やショッピングモールへ出かけ買物を楽しんでいただいています。ご利用者様がやりたいことが選択でき、行動ができるよう支援させて頂いています。ご利用者様が笑顔で、快適に生活できるようさまざまな工夫をしております。その方のペースに合った暮らしを支援していくためにも個別ケアに力を入れ、利用者様の要望に応えられるよう努め、皆様が笑顔で楽しく生活ができるよう努力していきたいと思っております。